

心と心をつむぎあい みんなでつくる みんなの幸せ



～ 一人ひとりが良^{りょうち}知を磨き 自分事として知り 行動する ～



【現地実行委員会からのメッセージ】

琵琶湖の水の3分の1を生み出す高島市の自然環境は、永遠に残していきたい本市の最大の魅力であり、京阪神の人々の生活をも支える大切な共有財産でもあります。この豊かな自然環境に抱かれながら、いきいきとした人々の活動や交流による、元気で活発なまちを目指し、「水と緑 人のいきかう高島市」を市の将来目標像としています。まちづくりの基本計画の政策分野の一つである「つむぐ」におきましては、本市で古くから営まれてきた系に“より”をかける^{ねんし}燃系業にちなみ、人と人が支えあい、誰もがわけへだてなく心と心を「つむぎ」あえるまちづくりに取り組んでいます。

本市には、およそ四百年前にこの地に生まれ、日本陽明学の祖であり、人々が心と心をつむぎあえるような考えを広く論じ、近江聖人とたたえられる中江藤樹先生の次のような人間理解と行動指針が受け継がれています。

- 皆が生きているこの世で一緒に幸せになる。誰もが皆と一緒に幸せになるだけの力をもっている。そのような、人が誰でも生まれながらにもっている美しい心『良^{りょうち}知』をくもらせることなく、鏡のように磨き続けることが大切である。
- 『良^{りょうち}知』に致る道筋は、『五事（^ご 貌 ^じ 言 ^{ぼう} 視 ^{げん} 聴 ^し 思 ^{ちよう}）を正す』ことにある。
 - ・ 貌：和やかな顔つきで人と接する
 - ・ 言：思いやりのある言葉で話しかける
 - ・ 視：澄んだ目で物事を見つめる
 - ・ 聴：耳を傾けて人の話を聴く
 - ・ 思：真心を込めて相手のことを思う



中江藤樹先生の肖像

今年の4月から「滋賀県子ども基本条例」が施行されました。子どもの権利を守り、誰一人取り残すことなく、滋賀の全ての子どもたちが自分らしく、健やかに、安心して育ち、子どもと子どもを取り巻く全ての人が笑顔で幸せに暮らせることを実現していくため、子どもの意見を聞くことを大切にするなど、中江藤樹先生の『良^{りょうち}知』を中心とする人間平等の教えをより生かしていきたいと考えます。

これらを踏まえ、高島大会の現地テーマを、『心と心をつむぎあい みんなでつくる みんなの幸せ ～ 一人ひとりが良^{りょうち}知を磨き 自分事として知り 行動する ～』としました。

様々な厳しい立場にあるその人・その子を取り巻く状況は、この世に生を受けた以上、誰もがその状況・立場になりえるものであり、みんなで共有するもの、「共に有る」ものであると捉え、多様な主体が系をつむぐように多くの交流を重ねながら、人と人の心を通わせ、みんなでみんなが幸せになれる社会をつくっていききたいという願いをこめています。

そのため、多様な主体それぞれが『五事』を正して自身の良^{りょうち}知を磨き、偏見や差別などに関する事実を自分事として知り、知って学んだことをもとに生活の中で行動していきましょう。そして、一人ひとりが個性あるかけがえのない存在として愛され、尊重される社会になるよう強く願い、高島市からのメッセージといたします。